

令和3年度第1回蓮田市総合教育会議議事録	
開催日時	令和3年12月22日(水) 午後1時00分から午後2時29分まで
開催場所	蓮田市役所3階 301会議室
出席者の職・氏名	蓮田市長 中野 和信 蓮田市教育委員会教育長 西山 通夫 蓮田市教育委員会教育長職務代理 飯野 和之 蓮田市教育委員 増田 孝 蓮田市教育委員 塚本 聖子 蓮田市教育委員 渡邊 陽子
欠席者の職・氏名	なし
事務局職員の職・氏名	総合政策部長 山口 亨 総合政策部調整幹 高橋 司 総合政策部調整幹兼契約検査課長 横田 修子 政策調整課長 塚本 孝 政策調整課副主幹 齋藤 欣志 政策調整課主事 柏木 渉 学校教育部長 増田 勝弘 生涯学習部長 新井 宏典 生涯学習部次長兼保育課長 田中 和之 生涯学習部次長兼社会教育課長 兼文化財展示館長兼中央公民館長 小宮 雪晴 子ども支援課長 坂口 洋子 文化スポーツ課長 小野寺 潤 図書館長 下之園 友子 教育総務課長 鈴木 聖雄 学校教育課長 高月 章浩 教育総務課副主幹 加藤 弘之 教育総務課主任 岩崎 恵美
会議次第	1 開会 2 市長あいさつ 3 教育長あいさつ 4 協議事項 (1) GIGAスクール構想について (2) 保育園の待機児童について 5 その他 6 閉会
配布資料	蓮田市総合教育会議次第・席次表 資料1 GIGAスクール構想について 資料2 保育園の待機児童について
会議の公開・非公開	公開

傍聴者	なし
-----	----

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容
総合政策部調整幹	<p>1 開 会</p> <p>本日は、お忙しいところ、会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。会議の前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>資料の確認</p> <p>以上でございます。お揃いでしょうか。なお、本日の会議の出席者につきましては、お配りした席次表のとおりです。</p> <p>次に、本会議について御報告いたします。総合教育会議は、市長が会議を設け招集することとしていることから、市長部局である総合政策部 政策調整課が会議の庶務を担当いたしますが、会議の協議・調整事項は、主に教育に関する事項であることから、運営等につきましては教育委員会事務局が事務補助する形で行ってまいります。</p> <p>それではただいまから、「令和3年度第1回蓮田市総合教育会議」を開会いたします。</p> <p>申し遅れましたが、本日の会議の進行を務めます総合政策部調整幹の高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>始めに、会議の傍聴についてお諮りいたします。本日の会議は、傍聴を希望されている方はございませんが、この会議は、蓮田市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、原則「公開する」と定めております。本日の会議では、特に非公開とするべき案件もございませんので、公開するというごこと御異議ございませんでしょうか。</p>
全委員	<p>異議なし。</p>
総合政策部調整幹	<p>異議がございませんでしたので、本日の会議は公開といたします。</p> <p>それでは会議を進めてまいります。なお、新型コロナウイルス感染の影響を考慮し、会議時間は90分程度を予定しております。ご協力をお願いいたします。始めに中野市長から御挨拶を申し上げます。中野市長、お願いいたします。</p>
中野市長	<p>2 市長あいさつ</p> <p>みなさん、こんにちは。今年も残り少なくなりました。今調整幹の方で申し上げましたように、総合教育会議は市長主催でありますので招集させていただきました。皆様方は大変お忙しいお立場ではなかったかと思いますが、お集まりくださりお礼申し上げます。</p>

お陰様で今年もいろいろな事業をさせていただきました。コロナ禍ではありますが、みんなで力を合わせて、目標に向かって進んでいるところでございます。

当市では、子育て・教育・基盤整備の三本柱を中心に施策を進めております。教育につきましては、私は「教育するなら蓮田市へ」というキャッチフレーズを掲げ取り組んでまいりました。

教育と子育てについては、国の所管する省庁は文部科学省と厚生労働省に分かれております。当市で教育と子育てを所管する組織については、非常にユニークな形態ですが、教育部門のほか子育て部門も教育委員会にお願いしました。子どもたちの立場に立ちますと一元化されていたほうが良いということで、そのようにさせていただきました。

教育委員会にはただ今申し上げました三つの大きな市の柱の中でも非常に重要な部分を二つお願いしているところであります。委員の皆様方、先生方には教育部門だけでなく、子育て部門や社会教育部門等、広い分野にわたり御指導いただいているわけでございます。今日はそのうち、GIGA スクールと保育園の待機児童を取り上げます。どうぞよろしく申し上げます。

総合政策部調整幹

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表いたしまして西山教育長から御挨拶をお願いいたします。

西山教育長

### 3 教育長あいさつ

改めましてこんにちは。総合教育会議は御承知の通り平成27年4月1日の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴って設けられた会議でございます。趣旨は、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図って、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、よりいっそう民意を反映した教育行政を運営し、執行することを目的としているものでございます。

市長と私も教育委員会との関係は、従来から意思疎通ができていましたので、総合教育会議を設けなくても十分であったと思っています。ただ、総合教育会議は法的に位置づけられたものですので、このような形で開催するものでございます。

本市では、市長の「教育するなら蓮田市へ」という熱いスローガンのもと、お陰様をもちまして、財政的にも支援を受け、円滑に教育行政が運営できていると私は思っております。各小中学校のトイレ、校舎の改修、子育て支援、社会教育、あるいは図書館・総合市民体育館・総合文化会館等、いずれも計画的に運営ができていると思っています。学力面でも、本市の児童生徒はここ数年非常に安定した力を示してしまして、県内でも上位に入る状況となっております。学力は毎年少しずつ伸びています。上がる時があれば下がることもあるだろうと思っているのですが、今のところは順調に伸びてしまして、非常に良い傾向だと思っています。このよい傾向を維持していくことがこれからの使命ではないかと思えます。また新型コロナウイルス感染症が収束した後、新しい

	<p>スタートをより良くスムーズに切っていくために、この1年しっかりやっていたかなければとも思っているところです。</p> <p>課題としては、この2年間、感染症の影響により子どもたちの人間関係調整能力が落ちていることが一番大きいかなと思っています。精神的に非常に不安定になっている子どもが増えていると実感しています。各学校を見てまわっておりますと、45分あるいは50分間の授業中、席に着いて先生の話聞く、友達の話聞く、グループの中でお互いに意見を交換する、これらがなかなかできない状況になってきています。</p>
	<p>もう一つは、地域の、あるいは家庭の子育てに対する理解という部分が非常に弱くなったと実感しています。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいのですが、保護者の方々にとっても生活のリズムが今までと違うものになってきていますので、お子さんに対しても様々なストレスを抱えながら対応している様子が感じられます。そういう状況から学校教育に対しても理解の不足につながっているように見えます。そこが今までの蓮田とはちょっと違ってきたかと、この2年ほど感じているところです。具体的に言いますと、家庭での過干渉、あるいは逆に放任がすごく進んでいるという実感があります。これからはその家庭教育への啓発が喫緊の課題であろうと感じているところです。</p> <p>本日取り上げます GIGA スクールも、保育園の待機児童もそういう意味合いでは、家庭教育とも切り離せない部分が非常に多うございますので、それを含めながら、市町部局と協議・調整できればありがたいなと感じています。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
総合政策部調整幹	<p>ありがとうございます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第3項の規定により、市長が招集する会議であることから、中野市長が議長となり、議事を進行させていただきます。それでは中野市長、よろしくお願いいたします。</p>
中野市長	<p>それでは、次第に沿って協議してまいります。協議事項の(1)「GIGAスクール構想について」、いろいろ資料が沢山ございますが、まず事務局から説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p><b>4 協議事項</b></p> <p><b>(1) GIGAスクール構想について</b></p> <p>蓮田市教育委員会におけるGIGAスクール構想について申し上げます。</p> <p>1頁の①GIGAスクール構想とは について申し上げます。</p> <p>GIGAスクール構想とは、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現しようとする全国で展開される取組のことで、これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教</p>

師・児童生徒の力を最大限に引き出すことができるとされています。

このGIGAスクール構想は令和元年、国の12月補正予算に計上されたのが始まりで、当初は令和5年度までとしておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年4月に国の第1次補正予算に計上され、配備目標が令和2年度中に前倒しされました。

これらを踏まえ、全国の自治体が急ピッチで令和2年度中の配備を目指しました。本市では、黒浜中学校の東校舎と体育館の一部を除いて通信環境の整備が完了しております。

続きまして1頁の2蓮田市教育委員会におけるGIGAスクール構想について申し上げます。

本市では、国のGIGAスクール構想を踏まえ、1人1台端末環境の利活用によるアクティブ・ラーニングの充実をさらに推進してまいります。また、今までの教育実践を継承しつつ、ICTの効果的な活用の研究をさらに推進し、1人1台端末環境を活かした、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことを基本方針としております。

次に、GIGAスクール構想の実現の実現に向けたICT活用等の計画について申し上げます。

(1) 各年度におけるICT活用目標について申し上げます。

新学習指導要領においては、情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、小学校においては、プログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動において、積極的にICTを活用することが想定されています。

GIGAスクール構想において、国は「1日1コマ分程度、児童生徒が1人1台環境で学習できる環境の実現」を目標水準としています。本市においても、これから述べます段階的なステップによって効果的な活用を行ってまいります。

3頁上段でございます。令和元年度においてはデジタル教材やプログラミング教育の推進を図ると共に、大型提示装置やタブレット端末の活用について研究を進めました。

令和2年度においては、学習支援アプリを使用して、家庭学習をしたり授業で活用したりしました。例えば、効果的なICTの活用方法や教科、単元について研究し、各教科の年間指導計画に補足し、新規整備する1人1台タブレット端末の利活用方法について研究を進めました。また、全小・中学校でMicrosoft Teamsの研修を行い、オンライン会議、Formsの使い方などを研究し、各学校の実態に合わせて使用しました。デジタル教材の活用や教材のQRコード化など授業準備の負担軽減も行いました。臨時休業等におけるICTを活用した学習支援について研究を進めました。具体的にはラインズeライブラリアドバンスのドリル学習などが該当します。

令和3年度における現状及び目標でございますが、小・中学校において、1人1台タブレット端末を使用し、まず基本的な操作に慣れることからの活用を目標としています。学習支援アプリを発達段階に応じて使用し、タブレット端末の安心・安全な操作方法を知ることを目指しております。臨時休業等におけるICTを活用したオンラインによる学習支援について研究を進めます。具体的には、Teamsによる同時双方向型のオンライン会議を行い、朝の会等を行う・学習支援ソフトを使って課題を配信、回収する・Formsによる健康観察を行う等の活用を段階的に進めております。

全小・中学校の情報教育担当者による連絡協議会を学期に1回以上行い、共通理解を図りながら、1人1台タブレット端末の利活用方法について研究を進め、課題分析及び授業改善を行います。オンライン会議等を通じて、1人1台タブレット端末導入後のソフトウェア会社や導入メーカーによる研修会を全小・中学校を対象に実施しております。

4頁、令和4年度以降の目標として、小・中学校の全学年において、1人1台タブレット端末を前年度以上頻度をあげて使用すること、操作に慣れ、活用スキルを高めること、さらには、タブレット端末等を活用し、課題の提示や提出、発表などができるようにし、協働学習を行うことを目指しております。

また、育成する情報活用能力の系統性を意識した日安の策定を行い、ICT活用指導能力の向上のため、定期的に研修を行い、教職員のスキルアップを図ります。

(2) 働き方改革(校務の効率化)への対応 を申し上げます。

ICT支援員を令和4年度より配置し、ICT活用の支援、校務支援、環境整備、校内研修等のサポートを行う予定でございます。デジタル教材を教職員間で共有することで、授業準備等の負担を軽減します。打合せや会議等においてもMicrosoftのアプリや校務支援システムを活用し、校務の効率化を推進してまいります。

4頁下段、**3** ICT環境整備計画 について申し上げます。導入した学習者用タブレット端末については、以下の通りです。タブレット端末は、市からの貸与となっております。

次に、5頁中段、整備状況について申し上げます。文部科学省では、新学習指導要領の実施を見据え「2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を取りまとめるとともに、当該整備方針を踏まえ、「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018～2022年度)」を策定しました。本市においては、国のGIGAスクール構想に基づき計画的な整備を実施していきます。

5頁から6頁にあります表は、国が定めております環境整備の水準と本市の導入状況を示しております。学習者用コンピュータ、指導者用コンピュータは、1人1台整備を完了しております。また大型提示装置につきましては、中学校では普通教室に65型液晶の大型モニターを100%、小学校では、プロジェクターと一体型のホワイトボード等で2教室に1台程度の割合で整備されています。

6頁の写真1は、中学生の生徒が英語の授業時に、大型モニターを使って、

自分たちで作成した英文を紹介する様子です。超高速インターネット及び無線 LAN の整備については、長寿命化改修工事を行っている黒浜中学校の東校舎と体育館を除いて 1 人 1 台端末環境の整備を完了しました。総合型校務支援システムシーフォース、学習活動に必要なソフトウェアは、100%整備が完了しております。また、授業目的公衆送信補償金制度サートラスは、令和 3 年 10 月より導入しております。これにより、著作権等の利用上の問題は解消され、フリーアクセス等が可能となっております。さらに、資料にはございませんが、セキュリティ、ウイルス対策としてのソフトも適用済でございます。

今後も家庭におけるオンライン学習等を想定し、家庭にインターネットの環境がない世帯への貸出用モバイル Wi-Fi も整備していきます。令和 3 年度は、在籍児童生徒数の約 10%を想定して確保いたしました。また、学習者用端末の充電保管庫につきましては、クラス数に基づき整備し、基本的に教室に設置しました。構造上物理的に不可能な場合は、廊下や多目的室や教科準備室等に設置した学校もございます。

続いて 7 頁上段、校内 LAN について御説明します。

令和 3 年 11 月現在、黒浜中学校東校舎及び体育館を除く市内 13 校の校内 LAN 整備状況は、文部科学省「GIGA スクール構想の実現標準仕様書」に基づき校内 LAN の整備を完了しています。インターネット接続については、各校に光回線を配備することにより、安定した環境を整え、同時利用率を考慮し通信速度を確保しています。令和 4 年度に黒浜中学校東校舎及び体育館を整備する予定でございます。

7 頁下段、**4**、令和 3 年度 11 月現在の取組状況 についてご説明します。

整備した情報教育環境を適切かつ効果的に活用するため、令和 3 年度は、大きく 5 つの取組を実施しております。

1 つ目は、指導者用デジタル教材の導入です。分かりやすく、興味関心を高める授業を実現するため、指導者用デジタル教科書を導入しました。教科は算数、数学、外国語、英語、家庭科、理科になります。また先ほどお話ししましたように、大型提示装置等を使って活用しています。

2 つ目は、学習支援アプリの活用です。まず、SKY MENU Cloud は、コンピュータ室で活用してきたアプリで、教員と児童生徒の端末を円滑に接続する双方向管理システムとして主に授業で使用しています。8 頁写真 2、写真 3 にもありますように、各自の考えを全体に共有したり共同編集したりするなど、協働学習の充実を図ることができます。次に、「ラインズ e ライブラリアドバンス」です。既に家庭学習用として導入している「ラインズ e ライブラリアドバンス」をタブレット端末にも導入し、ドリル学習教材として授業の中でも活用しています。なお、「ラインズ e ライブラリアドバンス」は、臨時休業時に家庭学習用として活用した学校もあり、継続的な学習を可能とする有効なツールとして市内の学校で共有しています。

続きまして 8 頁下段でございます。3 つ目は、教員研修の実施です。ICT の効果的な活用方法を学び、教職員の情報活用能力の差をなくし、児童生徒への

指導を円滑に行うため、定期的に研修を実施しています。令和3年度は、1人1台タブレット端末の導入後、学期に1回以上の研修及び協議会を実施しています。また各学校において研修の伝達を行い、教職員のスキルアップを目指しております。実施した研修は、ソフトウェア会社、導入メーカーによる研修会、ICT活用推進リーダー連絡協議会等があり、いずれもオンラインの研修として実施させていただきました。

4つ目は、情報セキュリティポリシーについてです。9頁をごらんください。情報セキュリティポリシーを遵守し、適切に運用するよう研修等を行い、遵守すべき事項の確認や情報発信を定期的に行ってまいります。

5つ目は、ICT支援員についてです。授業等でのICT利活用のため、教職員のICT活用指導能力の向上を図るため、現時点では、ICT支援員を令和4年度より配置する計画を進めています。

最後に、取組事例の紹介です。今年度11月時点の紹介になります。

1点目は、学校内外で、学習支援アプリを発達段階に応じて活用しました。

2点目は、コロナ禍でも体験・交流活動などができるよう、オンライン会議の機能を活用して双方向型の学習をしています。遠隔にいる講師の方と学校でつなぎ、オンラインでの学習会などを実施している学校もあり、活用の幅が広がっています。

3点目の事例は、体育館での体育の授業で、端末に搭載されているカメラの動画機能等を使って、児童生徒が自分の演技を確認したり教職員がより良い演技を示したりし、有効活用を図る実践も見られました。

4点目は、学習支援アプリのSKY MENU Cloudを使い、タブレット端末や大型提示装置を活用し、グループや学級全体での発表・話し合いを行う協働学習に活用しました。

最後に5点目でございます。不登校ややむを得ず登校ができない児童生徒がいますが、オンライン会議の機能を使って教室と実際につないだり、朝の会等をしたり、課題を受け取って学習をしたりした例があります。

これ以外にも、さまざまな研修を活かした具体的な活用を進めてまいりたいと思います。

9頁から10頁、**5**達成状況を踏まえたフォローアップ計画 についてご説明します。GIGAスクール構想の実現に向けた中長期的な目標を策定し、各学校への支援体制を強化しながら、導入メーカー等の担当者と定期的に学校訪問を行い、技術的なフォローアップをしていくことを目標として進めています。教職員の情報活用能力の目安を策定するとともに活用の目的、目標達成度を明確にし、児童生徒に身に付けさせたい情報活用能力の目安を策定します。また、ICT活用指導力調査等のアンケートを行い、よりよい研修を計画し、1人1台タブレット端末を利活用するためのPDCAサイクルを確立してまいります。各年度終了後、各学校の活用状況を取りまとめ、目標未達成の学校については、重点校としてICT活用に関する研修を行います。

**6**今後の課題 についてご説明いたします。GIGAスクール構想は1人1台



	<p>端末環境を整備すること自体が目的ではなく、その環境をどう活かせるかが重要ですので、これから申し上げます6点を利活用推進のための課題と捉え、具体的な方策をさらに推進してまいります。</p> <p>1点目は、臨時休校等におけるICTを活用したオンラインによる学習支援の研究です。2点目は、端末の維持等に関するランニングコスト及びボトルネックの改善でございます。3点目は、組織的なフォローアップ体制づくりでございます。4点目は、1人1台タブレット端末を利活用するための研修や各種協議会による指導体制の強化を図ってまいります。5点目は、不登校ややむを得ず登校ができない児童生徒のためのICTを活用した学習指導等の研究でございます。6点目は、学校と家庭の連携を図るためのICTの利活用の研究も深めてまいります。</p> <p>さらに今後は、県からの情報提供等を踏まえ、他の自治体の資料等を参考にし、本市の実状に応じた各種規定や端末利用のルール等の改善等を随時行ってまいります。11頁以降は、参考資料となっております。のちほど御参照いただければと思います。</p> <p>以上で、学校教育課の「蓮田市教育委員会におけるGIGAスクール構想」についての報告を終わります。ありがとうございました。</p>
中野市長	<p>時代の要請と言いますか、新しい指導手段としてGIGAスクール構想が打ち出され、早速現場でこれが活かされているという話でございます。多岐にわたり奥の深い説明もありました。</p> <p>先ほど課長からありましたように、5年くらいの計画で進めようということでありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり国の方が強力で推進したので、急速に導入が進んだということでございます。従って学校現場の先生方も大変だったと思いますし、我々市長部局も予算の確保に大変苦労したのですが、何とか形は整いました。つぎはそれを教育現場でどう活かしていくかという話になります。現在の実情は課長から説明があったとおりでありますが、率直なご質問等ありましたらまずお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
飯野委員	<p>新しい色々なことがいっぺんに出てきましたが、私が心配するのは現場の先生方は大変なのではないかということです。</p>
学校教育課長	<p>配備が急ピッチで進みましたので、やはり現場の声を伺っておりますと、利活用するところがなかなか追いついていかないということです。研修会等も含め今後の研鑽が必要になってくるかなと捉えております。</p>
飯野委員	<p>それを学校に伝える側の指導主事の御多忙さも想像がつきますが、いかがですか。</p>
学校教育課長	<p>やはり我々もスキルをアップさせることが必要でございます。苦しい状況ではありますけれども、我々も研鑽ということでやらせていただいております。</p>
飯野委員	<p>教育長どうでしょうか。</p>
西山教育長	<p>確かに指導主事は大変です。指導主事は今までも教材にかかわる指導はしてきましたが、端末でどのように教えていくかという指導が加わると非常に難しいでしょう。現在、その両面を勉強して指導していますが大変だと思います。</p>

増田委員	<p>指導主事には GIGA スクール以外にもやらなくてはならない仕事があるのですが、限られた時間の中でそちらの対応がどうしても薄くなってしまいます。</p> <p>それは学校の教員についても言えることです。授業の教材をどう教えるか、そういう本質をきちんと勉強することが本当は一番大事ですが、その時間を端末等の導入と利用法の対応に取られているのが非常に大きいです。</p> <p>他に課題としては、教員によって端末を積極的に使う先生とあまり使わない先生に分かれていて、先生方の間に温度差がみられるのが現状です。</p> <p>お話を伺いますと、指導主事の方で研修をしスキルアップを図っている様子が窺えますし、学校側も何とか活用していこうと取組をされていますよね。しかしながら、やはり先生方を引っ張っていただけるような ICT 支援員が必要という気がします。ICT 支援員の配置は令和 4 年度から想定しているということですが、例えば 1 校につき 1 名配置とか 4 校につき 1 名配置とかいったことが考えられますが、想定されている配置の内容をお伺いしたいと思います。</p>
学校教育課長	<p>まだ計画段階でございますが、支援員の具体的な人数等は定まっておりません。ただやはり学校の働き方改革という点からも支援員の配置は必要な要素と捉えております。</p>
増田委員	<p>予算の確保が関係するとは思いますが、支援員の方の配置によって各学校における端末等の活用能力が高まると思われまますので、計画的な配置を図っていただければと思っております。</p>
中野市長	<p>新年度予算の査定等は今日から始まります。頭に入れておきます。その他何かございますか。</p>
塚本委員	<p>“普段使い”にパーフェクトを望まず試行錯誤が大切だと文部科学省が書いていますが、先生方も今までのスタイルをちょっと変えるというのは、やはり勇気が要ると思います。なおかつコロナの影響で先生方の仕事が増えただけではなく、子どもたちもちょっと閉鎖的になってきているので、加速していく変化に先生方が対応するのは大変だと思います。そんな激しい流れの中でも子どもたちの人間関係や子ども自身の悩み等を先生方が見つけられるよう、大変ですが先生方には頑張っていただきたいなと思います。ただ、蓮田市は、GIGA スクールのスタートも、どちらかといえば他市町村よりゆっくりしている気がしますので、急速な変化に伴う弊害は少ないかなと考えます。</p>
中野市長	<p>政治の世界は特にそうなのですが、競争みたいに導入を進めるようなところがありました。当市の教育委員会はしっかりしていますから、現場を踏まえて様々な方策を練っていただいています。塚本委員が言われたように、こういう未曾有のコロナ禍の経験があつて、社会の生活様式・生活形態が個人の家庭一つとっても大分変わってきました。塚本委員が言われたように、今度落ち着いたときに、さあ始めましようと言っても、体制は整っていても子どもたちの心の問題とか別の課題が出てくると思います。その辺を克服し推進できれば理想だとは思いますが。</p> <p>ところで、タブレットを子どもたちが持つようになりますが、子どもたち同</p>

西山教育長	<p>士が学習以外で通信することはできないようになっているのですか。</p> <p>子どもたち同士のメールでの通信はできます。セキュリティがかかっていますので、先生方は子どもたちが何を書いたのか把握できるようになっています。メールはそういう点では心配ありません。</p> <p>子ども同士で情報共有できるのが端末の利点です。校内では、タブレットでお互いに自分で作ったものを見せ合ったり、一つの教材を先生が配信し、6人くらいで集まって議論し意見を書き込み、それを教室の全員で共有することもできます。従来はそれぞれのグループで話し合い、書いたものを先生が集めて貼るという作業がありましたが、今度はコンピュータ上で全部できる。そういう省力化という点で役に立つと思います。それがメリットとしては非常に大きいのではないのでしょうか。</p>
中野市長 西山教育長	<p>メール等の通信機能を悪用される恐れはないのですね。</p> <p>ほとんどありません。問題は家庭で使うときに、いわゆる違法サイトとか、子どもが触れてはいけない危険サイトに触れる可能性があります。アクセスできないようセキュリティをかなり強くしていますが、2つか3つ程度の扉をくぐればそういうサイトにアクセスできてしまいます。子どもたちに端末を配布して1月もたたないうちに、あれを見れたよ、これを見れたよという声が聞こえてきています。家庭で保護者がついてない状態で子どもに任せきりにすると大変なことになります。</p>
中野市長 学校教育部長	<p>GIGA スクールについて、担当部長から何かありますか。</p> <p>教育長と課長が言ったとおりです。校長会・教頭会では、使わないという選択肢はないと申し上げたのですが、一方で使うことありきになってしまい、授業そのものの狙いが達成できたのか、疑問が残るような授業があることも事実です。そこが现阶段での課題だと捉えています。</p> <p>教頭会等でお願いしているのは、1年程度は年間指導計画等に記録をしておいていただきたいということです。その記録を踏まえて来年度以降、使わない方がいい部分の選別や、効果的な使い方の蓄積をしてほしいと申し上げているところです。</p> <p>セキュリティに関しましても、規制はかけていますが、ちょっとプログラムに長けている子どもだと外せてしまうと思います。外しても学校に持ってくるときにまた規制をかけていれば、表面上は全くわからなくなってしまいます。12月議会でも議員さんからありましたように、情報モラル教育だけではなく、子どもたち自身で考え、「こういうことはやっぱりやっちゃいけない」というような視点を身につけられるよう、育てていかなくはないかと思えます。ケータイ・スマホ意見交換会等で子どもたちから上がってきた意見を各校に戻し、各校から子どもたちと家庭に周知し考えてもらうようにする等、そういうことが今まで以上に大きな課題となるのかと捉えています。</p>
西山教育長	<p>私は今後の予算措置が一番心配です。必ずリプレイスがありますから。その時にはまた何億もの費用が必要になります。次に心配なのは、端末が壊れたと</p>

中野市長	<p>きに修理費等をどうするかということです。端末は壊れるものです。もう数台壊れています。1年間は保証がありますが、その先はどうするか。個人負担で保険に入っていたか、市としてまとめて契約するのか、この辺はこれからの課題です。あとはデジタル教科書が無償化になってくれればありがたいのですが、そうでない場合は出費があります。</p>
渡邊委員	<p>ところで保護者の方は GIGA スクール構想をどのように受け止めていますか。</p> <p>保護者が端末等に関する情報を得る機会、感染症の影響で集まる機会がないこともあり、学校から送られてくる文書を読むことです。そのため、GIGA スクールではどういったことができ、また学校ではどういう活動をしているのか、そのあたりの理解は保護者により個人差はあると感じています。例えば、端末の悪用ができるとか、そういう具体的なことが分かりづらいということがあります。また、保護者により、かなり温度差もあるという印象です。最初のうちは必ず保護者がついてくださいという話が学校からあったことを受けて、「必ず親がついてなきゃいけないよだと今後困る」ということを言っておられた方もいらっしゃいました。今後感染症が収束し集まる機会が増えたら、学校からも GIGA スクールの状況やタブレットの利用について、保護者に説明し、理解を得る機会を設けていただければ良いと思います。</p>
中野市長 増田委員	<p>貴重な御意見ですね。</p> <p>9 頁には、不登校ややむを得ず登校ができない児童生徒がオンライン会議の機能を使って教室とつながり、朝の会等をしたり、課題を受け取って学習したりしたと、非常に素晴らしい取組が報告されています。適応指導教室「エコー」には、今まで不登校の児童生徒を指導してきた教材がたくさんあると思います。それをデジタル化して各学校の不登校ややむを得ず登校ができない児童生徒の学習に活用する方法もあると思います。ICT 支援員さんが配置されたら御検討ください。よろしくをお願いします。</p>
中野市長	<p>GIGA スクール構想は初めての大きな試みであり、かつ導入は急を要するものでありました。現場でやることも多く様々な要件を解決しながら取り組む事業だと思っています。ICT を利用した教育は今後ますます高度化する流れにあると思いますので、これを前向きに捉えて、我々市長部局も教育委員会も取り組んでいきたいと思っています。この辺で GIGA スクール構想については一旦閉じさせていただいて、次の議題に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。また途中で再確認したいことがありましたら遠慮なくお願いしたいと思います。もう一つの大テーマであります保育園待機児童について、事務局の方から説明をお願いします。</p>
生涯学習部次長 兼保育課長	<p>(2) 保育園の待機児童について</p> <p>それでは御説明させていただきます。まず 1 頁の保育施設数・待機児童数の推移というところで、下に表がございますが、棒グラフとなっているのが全体定員数の推移を示しております。</p>

下にあります、ちょっと見づらいのですが折れ線グラフとなっているもの2本のうち、上段の白い方が実人数の待機児童数、下段が国基準の待機児童数を示したものとなっております。こちらと2頁の待機児童対策をあわせてごらんいただきながら説明をお聴きいただければと思います。よろしく願いいたします。

2頁になります。平成27年度に「子ども・子育て支援新制度」が本格的にスタートし、蓮田市も「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、待機児童対策を計画的に進めてまいりました。令和元年度末には「第二期子ども・子育て支援事業計画」を策定し、令和2年度より更なる待機児童対策を進めているところでございます。

2頁保育施設数の推移をごらんください。平成28年度には花星保育園が新規開園し、平成29年度には中央保育園が新設のため仮設園へ移転しました。29年度当初の全体定員は748名でした。

平成30年度には公立保育園の蓮田みぬま保育園が新規開園しました。29年度末に新宿保育園が閉園しておりましたが、平成30年度の全体定員は818名に増加しました。

平成31年度は新規保育園の開園はありませんでしたが、東保育園が定員を5名増員し、花星保育園も6名増員しましたので、平成31年度定員は829名となりました。この年には実人数での待機児童が65人と多くおりましたが、8月に小規模保育施設ゆめの木保育園が開園し、待機児童の解消を図ることが出来ました。

令和2年度には、とねの会はすだ保育園が開園し、定員数は903名に増加しました。

翌令和3年度には小規模保育施設スクルドエンジェル保育園蓮田駅前園が開園し、現在の定員921名となりました。

待機児童数の推移ですが、実人数の最高値は平成31年4月1日現在の65人、国基準数の最高値は令和2年4月1日現在の36人となっていました。令和3年4月1日現在では、実人数45人・国基準数24人の待機児童がいて、待機児童の解消には至っていないのが実情でございます。

ちなみに令和3年度の待機児童の年齢別数を国の基準に則して申し上げますと、0歳児が9名、1歳児が13名、2歳児が1名それと3歳児が1名という形になっております。このなかには1園のみを希望していらっしゃる方が15名ほどいらっしゃいます。例えば3歳の子につきましても1歳の子と同じ園に入りたいということで、この4月の時点では待機児童となっておりますが、現在は幼稚園の方に入園されております。来年度の希望としてはその1歳のお子さんの方も同じ園で希望されている方ですけれども、そのあたりもう少し緩和されて申し込みされていらっしゃいます。実人数のほうになりますと5歳児が1名いらっしゃいますが、こちらの方は認定こども園の幼稚園に通われている方でございまして、他の保育園であれば定員は空いているのですけれども、通っているこども園の保育の部分に行きたいということで、こちらだけ希望と

	<p>いう方がいらっしゃるしております。実人数の方ではそういう方で3歳児でも3名いらっしゃるのですけれども、こちらの方も、今現在幼稚園や認可外保育園に入って通っているのですけれども、希望している園が駄目なら今のところに行きますからいいです、というような方もいらっしゃるというのが実情となっております。</p> <p>また今年の特徴といたしましては、0歳児で1名、1歳児で7名、合計8名の内定辞退がございました。こちらにつきましては、コロナを要因といたしまして、ちょっと遠慮しておきますということでの辞退がございました。</p> <p>令和3年4月現在の定員ですけれども、0歳児が80人、1歳児が148人、2歳児が175人、3歳児が165人、4歳児が176人、5歳児が177人となっております。</p> <p>最後に来年度につきましては、参考資料3頁に付けさせていただいておりますけれども、こちらの中では新たに開園を予定しております星の子ルチャ保育園並びに認定こども園の大山幼稚園も入れてございまして、0歳児の定員が6人増加して86人、1歳児は12人増加して160人、2歳児は、もう12人増加して187人。3歳児につきましては、198人、4・5歳児につきましては、まだルチャ保育園の方は4・5歳児の受け入れをしませんので、大山の増加分だけですが、4歳児は189人、5歳児は190人の定員という形で、やっていく予定で進めているところでございます。簡単ではございますが、以上となります。よろしく願いいたします。</p>
<p>中野市長 飯野委員</p>	<p>ただいまの説明につきまして、皆様の方で何かお気づきの点はありますか。</p>
<p>生涯学習部次長 兼保育課長</p>	<p>認定こども園が増えてきたように感じますが、ほかの幼稚園の動きは何かありますか。保育園が増えるということは、幼稚園にとっては競争相手が増えるという点で脅威なのではないかと思えます。</p> <p>そのあたりはいろいろ考えていらっしゃると思います。ただ、現在では預かり保育もやっている幼稚園が増えてきておりまして、ある幼稚園にお伺いさせていただいたときには、今年度は昨年度の倍預かっているというお話を伺いました。預かり保育の需要が大きいことが分かってきたというお話も伺っております。</p>
<p>塚本委員 生涯学習部長 塚本委員</p>	<p>0歳児から5歳児の人数は市内に何人いらっしゃるのでしょうか。</p> <p>大体2,500人くらいです。</p> <p>令和3年度の保育定員数と実待機児童数を合わせると970人弱になります。それに対し令和4年度の定員が1,010人と見込まれることは大変喜ばしいことです。その後についても不足分を補う定員増を計画されているのでしょうか。</p>
<p>生涯学習部次長 兼保育課長</p>	<p>その後は推移を見ていくこととなります。なお、市内だけでなく蓮田周辺の認定こども園や幼稚園に通われている方もたくさんいらっしゃいますので、その点も踏まえて待機児童数と定員を見ていきます。</p>
<p>中野市長</p>	<p>この一連の流れは、新井部長が課長だった頃からずっと続いています。国の方針はどちらかというと、私立の保育園に誘導するようになっていて、多額の補助金が交付されます。以前、蓮田ねがやど保育園や蓮田みぬま保育園の新設</p>

は市が行いました。一方で民間の保育園の新設については国の手厚い補助制度があり、半額が国庫補助となります。その制度に初めて乗ってくださったのが白百合幼稚園で、幼稚園をやりながら保育園をやることとなりました。最初の段階ですから、幼稚園自身も苦労があったし、担当の方も苦労があってスタートしたのです。その後、花星保育園、とねの会はずだ保育園、今度の4月オープン予定の星の子ルチア保育園も国庫補助と市の補助を受けて整備しています。花星保育園では幼稚園も運営するということで、認定保育園となりました。このように私立の保育園の場合は公的な支援があります。これは僻んでいるわけではないのですけれども、かたや市が建設すると国庫補助はありません。

先ほどの飯野委員の御質問と関連しますが、幼稚園の方でも認定保育園をやっていたところが出てきている状況があります。その中で蓮田市としては、公立・私立という色分けはあまりせず、やっていた方にとんどんやっていたとこのスタンスで取り組んでいるところです。

これも新井部長はよく知っていることですが、市立の東保育園を改修する段階の長期計画では、待機児童がゼロだったのです。ところが、ありがたい話なのですけれども、保育園を造れば造るほど保育園を待っている方も増えるという状況です。

話が飛びますが、蓮田市の人口動態は、転入されるかたと転出されるかたと比べますと、数年前から転入が多く、転出が少なくなりました。2月から4月にかけては、進学や就職により転出されるかたは多いのですが、現時点で転入転出を見ますと転入が多いのです。毎月広報に掲載される人口が減っているのは、高齢の方が、私もその世代に入りますが、毎月70名前後亡くなっているためです。これが毎月続いておりますので、人口は若干減少しております。市制施行した時期の前後、昭和40年代から50年代にかけて人口が大幅に増えましたが、そのとき転入された方が現在80歳、90歳を迎えていますので、亡くなる方が多いのが蓮田市の宿命であります。

お勤めする方々にとっては、子どもを預ける場所がある、教育レベルが高い、そういう要素は居住地としての選択肢として大きいと思います。従って、保育園等を造れば造るほど、希望される方も増えてくるものと、そういう捉え方をしているわけです。新井部長少し補足をお願いします。

私が子ども支援課に異動してきたのが平成23年度ですが、当時の保育施設は、3頁の表で言いますと、上から6園目の蓮田ねがやど保育園までが公立保育園で、認可保育園でもあります。その他に認可外保育施設として、現在認定こども園になっている花星こども園が当時は花星幼児園として運営されてきました。それから小規模保育事業については、現在すべて市の認可を受けておりますが、当時フルーツバスケットがやはり認可外保育施設として運営をしておりました。その他の施設はなかった状況でしたが、この10年で施設も倍くらい増えています。

子どもの数自体は10年でかなり減っていますが、平成27年度に子ども・子育て支援新制度が始まり、蓮田市の場合、1か月64時間働いていれば、保育

生涯学習部長

園に預けられるようになりました。そういったこともありまして保育需要がだいぶ高まってきたのかなとは思うのですけれども、このままいくと保育施設を造っても造っても足りない状況です。今回の議題は保育園の話に絞っていますが、学童保育所についても同じことが言えまして、こちらも施設は2倍くらいに増えております。今後、子どもが全員保育園に通うような時代が来る可能性もあります。そこまで保育施設が必要になる可能性も考えながら市も対応しなくてはならなくなるかもしれません。

一般的には、幼稚園は毎年預ける子どもが減ってきているということで、学校法人としての経営が難しくなり、認定こども園に移行しているところも増えつつあるのかなとは感じております。幼稚園のなかには認定こども園に移行されていないところもあります。認定こども園化を目指すことで、施設整備にあまり予算をかけなくても保育需要に対応できれば、と考えております。その分、先ほど申し上げましたように、学童保育所が若干心配なところがありますので、そちらも今後考えていきたいと思っております。以上です。

西山教育長

保育園の新設と待機児童の増加は、いたちごっこみたいに感じるでしょうけれども、社会統計上は相殺フィードバックと行ってごく当たり前に起こる現象です。何かの課題を解消すれば、そのことによって当然人が集まります。いまはその良い循環に乗っているのだと考えた方が良いでしょう。

逆に、もし保育園を整備しなければ、蓮田は選ばれなくなり人口は減ります。我々は批判を受けるでしょうけれども、保育園は造らなくて済むでしょう。だから、保育園の整備は街の活性化のために必要な先行投資だと捉えたほうが良いでしょう。

私も担当者とよく話すこととして、今後、公立を整備していくのは財源的に難しい部分がある。でも民間ではやっていただけたところは絶対ある。それを逃がさないようにして増やしていこうと言っております。不動産屋さんと話すと、蓮田市の地価は予想以上に低く見られている。これから上がってくるだろうから不動産は今買いである。そうすると若い人が、まだ安いうちに買おうとし、結構転入してこられます。そういう御家庭はお子さんはまだ小さいことが多いですから、保育園の需要も増えるだろうなと思っています。

親御さんがお子さんを認定こども園のあるところに入れなくなってくると、自然に幼稚園の経営はこども園へとシフトしていく流れになります。また、認定こども園のほうも幼稚園教育を取り入れ、英語教育などにも取り組みはじめているところがあります。

中野市長  
飯野委員

うれしい悲鳴です。

今整備中の園のほか、既存の園も含め、ロケーションのバランスはいかがでしょうか。

生涯学習部長

やはり私立の保育園については、駅に近いところに整備したいという考えがあるようです。もし将来保育の需要が減ってきたら、駅の近くでないと経営が成り立たなくなるのではないかと危惧があるように見受けられます。なかなか市の思うようなところには建てていただけないのが現状ですが、今は自家



西山教育長	<p>用車で送迎される方も多いので、多少居住地から離れていても対応できている御家庭も少なくないと思います。</p> <p>保育と幼児教育の内容を今後どうするかということが非常に大きな課題になるだろうと私たちは思っています。学校はいろいろ変わってきていますから、保育自体の内容も変えなきゃいけないものがいっぱいあると思うのですね。今は受け入れる施設を造ることを一生懸命やっていますが、中身を充実することも考えていかななくては、と思っているところです。少しずつ手をつけていこうと思っています。</p>
増田委員	<p>今、教育長がおっしゃったように、幼稚園と保育園は指導内容や指導法に違いがあります。そうすると、小学校に上がってから子どもたちに格差が生じます。保育園、幼稚園、小学校と相互に情報交換しながら、小学校に向けた指導内容、指導法について情報の共有や研修の機会が必要かと思いますが、現在はどうのような状況になっておりますか。</p>
中野市長 生涯学習部次長 兼保育課長	<p>幼稚園と保育園との連絡会議、情報の共有などはしていますか。</p> <p>幼稚園と保育園同士というのは今はやってはおりません。保育課としては、保育園については当然、公立も含めて行っております。課と幼稚園との連絡協議会も実施し情報共有をしたりしていました。現在は新型コロナウイルス感染症の影響によりできておりません。</p>
飯野委員 西山教育長 中野市長 西山教育長	<p>このあたりはこども家庭庁ができたときに調整・<sup>しゅうけん</sup>収斂されるのでしょうか。 <sup>しゅうけん</sup>収斂されるでしょうね。</p> <p>国の方針として何か示される可能性はあります。</p> <p>増田委員がおっしゃったように、幼稚園教育と保育はまるっきりとっていかかわらないのですが、<sup>かいり</sup>乖離しているところはありますね。それはやっぱりおかしいことであって、本来幼稚園だろうが保育園だろうが、必要なことをきちんとやる。だから幼児の間は、体験的活動をどれだけやるかが大事なのであって、それをきちんとやることで地盤が整って、小学校教育が入ってくる礎ができる。そうすると、この小学校1年生があまり早く歩き過ぎないようにすることが大事になってくる。学校と保育をいかに結びつけるか、いわゆる就学前教育が大事になってくるだろうと思います。現在でも、多少は取り組んでいます。</p>
学校教育部長	<p>幼稚園や保育園の近くの小学校では1年生が園に行ったり、保育園・幼稚園児や職員が小学校に来たりということが割とできるのですが、立地が離れていると、情報交換のみになってしまうこともあります。</p>
中野市長	<p>先ほどの GIGA スクール同様、この件も話が尽きないテーマで、非常に身近なテーマで大事な点がまだまだあるのですが、時間が大分迫ってまいりましたのでこの辺でよろしいでしょうか。今後皆様におかれましては、GIGA スクールも、待機児童対策につきましても注視していただきたいと思っております。ありがとうございました。それでは私の議事進行役はこれで降ろさせていただきます。御協力大変ありがとうございました。</p>

<p>総合政策部調整幹</p>	<p><b>5 その他</b></p> <p>ありがとうございました。議事といたしましてはその他とありますが、特にこちらから御報告はございませんので、会議は以上となります。本日の会議につきましては、議事録を作成いたします。議事録は、蓮田市総合教育会議運営要綱第5条に基づき、市のホームページに掲載いたします。議事録の承認につきましては、中野市長と西山教育長に確認いただき、署名を頂戴したいと存じます。</p>
<p>総合政策部調整幹</p>	<p><b>6 閉会</b></p> <p>以上をもちまして、本日の議事は全て終了いたしました。本日は、ありがとうございました。</p>

会議のてん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和4年4月13日

蓮 田 市 長

中 野 和 信

蓮田市教育委員会教育長

西 山 通 夫